

佐事研だより

平成 27 年 10 月 27 日 火曜日 第 91 号

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 会長 古川 治

～知事部局からの転入者紹介～

会員各位

朝夕の冷え込みが厳しいですが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。行事の多い秋ですが、体調管理をしっかりして乗り越えていきたいものですね。

さて、今回の佐事研だより第 91 号では、知事部局から転入の 4 名をご紹介します。知事部局へ異動して感じたこと、また、学校へ戻ってきて感じたこと…様々な思いを掲載していますのでご覧ください。



小城市立三日月小学校 副主査 諸富 淳一郎



私は、みやき町立三根西小学校に新採から 4 年間勤務し、知事部局である“まなび課”に異動しました。まなび課には 3 年間勤務し、現在は小城市立三日月小学校で 3 年のブランクを埋めるべく、支援室の先生方に助けられながら、日々慌ただしく勤務しているところです。

まなび課では、図書館先進県・まなびの拠点づくり担当として、図書館横断システムの運用やPOPコンテストの実施、読書ノートの作成・配布など、県民の読書推進に係る様々な業務に携わりました（詳しくは県庁HPで検索してください）。他県の図書館視察や県立図書館の蔵書点検、県議会の資料作成など貴重な体験もさせていただきました。他にも桜マラソンスタッフとして走り回ったり、防災キャンプで小学校の体育館に泊まったり、フォーチュンクッキーを踊ったり…などなど。

この 3 年間は、学校での経験がほとんど活かされない業務ばかりで、大変苦労しましたが、システムの調達や企画の立案・営業・表彰など、学校では絶対に経験できないような業務を経験することができ、様々な面で成長できたと思います。特に、メンタルはかなり鍛えられました。また、一つの業務をやり終えたときの達成感は、学校では味わえないものがありました。そしてなにより、県庁各課の職員とつながりができたことが個人的に一番の収穫だったと思っています。

現在勤務している三日月小学校は、児童数 800 人以上、職員数 50 人以上の大規模校です。久しぶりの出勤簿に感激したのも束の間…年度初めの事務手続きがばったばたと押し寄せ、もはや 4 月の記憶はありません。自分の業務をこなすことで精いっぱい毎日ではありますが、できる限り学校運営に参画し、まなび課での 3 年間で少しでも学校に還元できるようにしていきたいです。

佐賀市立新栄小学校 主査 外尾 幸太郎



○教職員課で行っていた職務内容

義務制から異動して、教職員課に 4 年間お世話になりました。その間、担当として携わった職務は、扶養・住居・通勤手当、教員特殊業務従事手当、管理職手当、共同実施、小中学校定期監査、職員・給与システム、電算担当、小中学校地区担当といったものでした。通常、年度ごとに係内で担当業務の入れ替えをしていますが、後半の頃は、職員・給与システム関係に携わる事が業務の大半となりました。

○職務を行う上での学校現場との違い

何事についても仕事を進めていく上では起案により上司の承認を得なければなりません。組織として動き、組織としての意思判断がより一層重視されるためです。そのため、起案の際は、自分がどのような事をしたいのか、他者から見て分かり易いようにまとめる必要があります。決済の過程では、幾人もの同僚や上司の方に起案内容の確認をしてもらいますので、質問された際にはしっかり答えられるように、起案前の段階で予め自分の考え方を整理しておかなければなりません。

対象となる内容によっては、課外の部署や庁外の機関と事前に相談や調整を必要としたり、前例がなく容易にまとめられないケースが生じたりして、担当者として起案を進める事が難しい場合もあります。そのような場合には、同僚や上司に相談してアドバイスをもらい、起案の進め方の一助にしました。課内には学校事務職員も含めて経験豊富な方が多くおられるため、業務内容について気軽に相談ができたのは大変有難かったです。

○業務の中で学んだ事・今後も気をつけたい事

学校とは異なる環境での実地を通して学ぶ事が多かったのですが、日常のふとした上司の一言が非常に重要だったという事が少なくありません。それらの意図する内容は基本的かつ当たり前の事ですが、意外に見過ごしやすいため、最後にそれらをあげてみます。

『ボールはいつまでも持っていてはいけない。長く持っているほど自分が悪くなる。ある程度まとまったならば相手にボールを投げなければならない。』

→これは難しい事案のため回答に時間がかかっていた時に上司にかけてもらった言葉です。

仕事をする上では、時間をかけて満点を取るよりも、迅速に及第点を取る方が大事。

『自分はどうしたいの？』

→何かにつけよく言われた言葉です。条例や規則等が先にあって、その後に結論が来るという図式に縛られていると、条例等の解釈や捉え方によっては結論がぶれてしまう事がある。何事にしても、まずは自分の考え方や方針をしっかり立てる事が大事。



○知事部局での業務内容

平成 24 年度～平成 26 年度の 3 年間、佐賀県出納局総務事務センターにお世話になりました。総務事務センターでは、報酬・賃金担当として勤務をしました。

報酬・賃金担当の業務内容は、総務事務センター集約対象の所属で雇用される非常勤嘱託員・日々雇用職員に関する業務が主なものです。採用・退職に関する事務、毎月の報酬・賃金支払業務、社会保険・雇用保険加入者の保険の取得・喪失業務、年末調整の事務等を行っていました。社会保険・雇用保険に関しては、臨時的任用職員、再任用職員についても行っていました。

○義務制に戻ってきて感じたこと

義務制に戻ってきて、改めて業務の幅広さを感じています。知事部局では、自分の担当業務について深い知識を身につけておく必要があると感じましたが、それと比較すると、義務制ではあらゆる業務について広く頭に入れておく必要があると感じます。

また、総務事務センターでは、各所属の担当者が自所属の職員の情報を収集した上で、その担当者とやり取りとすることがほとんどでした。各所属の担当者から少し先のことや細かいところまで教えてもらい助かることが多くありました。学校では自分自身が担当者として職員の情報を把握しなければならないので、職員とコミュニケーションをとり、いろいろな情報を知っておかないといけないと思っています。立ち位置が変わったことで、自分のためだけでなく周囲へ伝えるときのためにも情報収集は重要であると感じました。

○知事部局で学んだことをどう活かしたいか

基本的なことではありますが、知事部局では「報告・連絡・相談」の大切さを痛感しました。経験豊富な方やその事例に詳しい方に相談し意見を聞いて解決したこと、担当・係内で情報共有・情報交換をし、仕事がスムーズに進んだこと、上司への報告の際に更にアドバイスをいただいたことが多くありました。学校においても、事務室、教職員、管理職、共同実施をはじめとした事務職員の方々と連携して仕事を進めていくことを心がけていきたいと思っています。

その他にも係内の同僚や先輩職員の、先を考えながら仕事に取り組む姿勢や常に自分の意見を持っておくという姿勢を見てきました。私にとっては刺激となるヒントをたくさん得ることができ、今後活かして仕事を進めていく上でより迅速により正確にこなしていけるようにしたいと思います。



鳥栖市立鳥栖北小学校 主査 大坪 泰裕



〇知事部局での経験について

平成24年度から3年間佐賀県立図書館に勤務しました。県立図書館では、企画課の総務担当に配属され、予算、歳出、施設を担当しました。

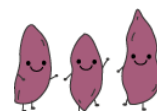
担当が、たまたま【予算】と【施設】を担当することができたことは非常にラッキーだったと思います。【予算】では、佐賀県の予算要求の仕組みや、事業評価について学ぶことができ、国の経済対策や佐賀県の政策が事業に直結していることを強く感じました。【施設】では、図書館システムの更新、書庫の増設等、耐震補強工事と5年に1回、20年に1回という事業に担当として関わることができ、大変な面もありましたが、勉強になりました。というのが表向きの感想ですが、実際のところは、【予算】の面では、3日間で、県立図書館全館にWi-Fi環境を整備する予算を作成するよう指示があったり、事業評価を受ける過程で300万円規模の事業を2時間で700万円規模にするような指示があったりと、短期間で作成した予算が、その後の事業予算となりますので、非常に胃が痛い思いをしました。【施設】の面でも、緊急経済対策により書庫の増設の計画がとんとん拍子で進んでしまい、書架の購入、電気の配線、消防設備の整備、除湿器の設置、図書の移送を行うこととなってしまいました。事業自体、実質3か月位で行う事業であったため、くらし環境本部の予算を担当している企画・経営グループの企画担当係長から笑いながら「あんた、倒れるよ」と言われるほど忙しかったです。

また、総務担当でしたので館長と頻りに話す機会があり、『制度（条例、規則など）は、現状に合っていないものは、必ず修正しないとイケない。なぜなら、現状に合っていないと、裏で制度を逸脱しようとしてしまう。』というのが言葉が非常に印象に残っています。私は、これまで、制度を守ることを念頭に置いて仕事をしてきましたが、どうしてこのような制度になっているか少しは考えるようになりました。また、教育庁から異動してこられた方でしたので、学校についてもいろいろ話す機会があり、『学校現場の判断は、経験則により導いたものが多いので、行政職である事務職員が、しっかり論理構成を構築してやらないとイケないよ。』と何気なく言われた言葉が心に残っています。

総務担当でしたので、現在勤務している内容と変わりませんが、この濃い経験を学校現場で活かせたらと思っています。

編集後記

知事部局からの転入者の皆様、それぞれの思いがこもった貴重な体験談の提供、ありがとうございました。



今後とも、皆様によりよい情報をお伝えしたいと思いますので、投稿したい原稿や、ご意見・ご感想がありましたら、各地区の情報推進部員までお願いします。